

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日
平成 28 年 4 月 1 日

Table with columns for 事務事業名, 交通安全指導事業, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details on policy placement and budget items.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像), ②担当が行う業務の内容・やり方・手順. Includes details on traffic safety education and bicycle safety activities.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段, ②対象, ③意図, and various indicators (e.g., 活動指標, 対象指標, 成果指標) with data for 26-30 years.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts and costs for 26-30 years, categorized by source (国庫, 県, 地方債, etc.) and personnel costs.

Table showing internal costs (事業費の内訳) for 27 and 28 years, including items like 報償費 and 需用費.

(4) 当該年度の実施内容

Table for implementation content (実施内容) for 28, 29, and 30 years, including a list of main activities and a note about recording content.

事務事業名	交通安全指導事業	事務事業No.	40301000702	所属課	生活安全課
-------	----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
昭和30年~40年代に自動車が増え、特に児童・生徒の交通事故が増え始めたため交通安全教室での交通ルールマナーの習得のため開始された。近年では、高齢者の交通事故件数の増加がみられ、高齢者に対する交通安全思想の高揚を目指し、交通ルールマナーと新たな交通安全指導が必要とされている。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
<ul style="list-style-type: none"> 全国的に高齢者の死亡事故が多発していることから、高齢者を対象とした事業(自転車の乗り方 など)の充実して欲しいとの要望がある。 全国での通学道路に車が突っ込む事故が相次ぎ、また市においても中学生の事故相次ぎ、通学時に安全確保の要望がある。 	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	児童・生徒や高齢者が交通安全思想を高揚させる事により、交通事故の減少へ結び付く
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	茨城県警察交通企画課、桜川警察署の協力により、児童・生徒や高齢者への交通安全思想や交通ルールマナー向上などを高揚させる事により、交通事故の減少へ結び付く
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	小中学校は全員交通安全教室に参加しているが、高齢者は受講していただく方が限られてしまう。また、交通ルールは理解されているが、歩行者に配慮した運転など交通マナーの向上は、より一層幅広い世代への拡充が必要となっている。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	幼少期から高齢者まで交通安全について指導を続けていかないと、交通事故に遭うリスクが高まる恐れがある。休止廃止した場合は何十年後に跳ね返る可能性があるため影響がないとは言えない
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨	<input type="checkbox"/> 余地がない	具体的な手段、事務事業名
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	新入生対象交通安全配布物、交通安全教室講師・自転車点検時の謝礼、交通公園の入場料のみなので、削減する余地はない。また交通安全教室は各学校1回程度、高齢者は、出前講話など警察署員対応しており、削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	市内の児童・生徒や高齢者全員が対象となっているため公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	幼稚園・保育所・小中学校等の若年層の交通ルール・マナーは向上し、県内でも交通死亡事故は昭和33年以降最も少ない数字になっているが、市内の交通死亡事故は2件(-2件)と減っているが、交通死亡事故ゼロを目指し高齢者対策や自転車利用者への交通ルール・マナーは向上指導が必要である。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
子供向け交通安全教室は児童数が減ってきており、教室の開催数などは変わらないが、受講人数は減っている。高齢者指導対策として今後も高齢者が増えていくため、社会福祉協議会や高齢者クラブなどの事業で時間をもらい、出前形式の交通安全教室を充実させるとともに、各地区区長に依頼し、地区での会合や集まりの時に出席講座を開き、広く周知することが必要である。 自転車利用者に対して、自転車安全利用5則の周知、乗り方指導を交通安全教室で引き続き行うとともに、駅周辺などでも乗り方マナー指導を行っていく必要がある。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果 ⑨																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>